

令和6年度 学生FD CHAmmit 学部提案書に基づく学生への回答書

1 学生との協議の場について

実施日	実施内容
令和6年12月6日（金）	CHAmmit参加者（教職員含む）及びFD委員、学務担当、教務課員の計13名により、学部提案書について1時間強、意見交換を行った。

2 歯学部から学生へのメッセージ

<p>歯学部では学部独自の取組として学生FD活動を支援しており、平成28年度から『歯学部学生FD「しゃべり場」』を開催していました。「しゃべり場」は、教育や学生生活環境の改善・向上に対して、学生の声を反映させることを目的としてしており、目指しているものは本協議と同じです。こうした観点から、昨年度から本協議と「しゃべり場」をMIXして開催し、より充実した学生と教職員間の意見交換会の実施が実現しました。</p> <p>また、日本大学全体の教育や学生生活環境の改善・向上を目指して、「学生FD CHAmmit」が毎年開催されています。「学生FD CHAmmit」が終わった後に「行けばよかった」といった声をよく聞きますが、あとから聞くと面白そうに感じるものの、いざその時には食指が動かない傾向があるようです。次年度からは、より多くの歯学部学生が自分の意思で、全学学生FD活動に積極的に参加してくれることを期待しています。ぜひ、学生FD CHAmmitに参加してください。</p>
--

3 学部提案書の対応について

「学部に見る授業」の提案について

項目	対応済	対応中	検討中	対応内容
指定教科書を購入しても、授業内で8割も使用せず勿体ないと感じている。具体的に「〇ページを参照する」など、関連箇所を示して欲しい。	○			中学・高校までは教科書に沿って授業を行います。大学では位置づけが異なります。授業を受けた後に「自学自修」のため、有効活用するかは自分次第だと考えています。また、進級していくうちに、必ず教科書が役立つ日がきますので、是非活用してください。
講義スライドデータを全て共有して欲しい。	○			個人情報（患者情報）を含む画像やデータは共有できませんが、これ以外のデータはできる限り共有するよう、教員に周知します。
第1学年「歯科臨床早期見学実習」について ①患者さんの配当の有無によってその日の学びの幅に差が出ている。患者の配当がない場合、有意義なレクチャーをしてくれる診療科もあるが、多くは時間をつぶすだけになっている。 ②新カリから導入された科目なので、旧カリの先輩からは羨ましいといった声が出ている。	○			①来院患者数やその病態に偏りがあったり、予定通り実習が進まず、各診療科によって差が生じることはやむを得ないことですが、これにより学びの差が出ることをの無いよう改善します。 ②本実習は、令和5年度導入の新カリキュラムからスタートしました。1年次では患者さんへの「態度・気配り」等を現場で学ぶことで、将来の歯科医師像をイメージします。また、3年次では基礎歯科医学を学修し、臨床系科目がスタートした段階で「歯科臨床見学実習」に臨みます。ここでの学修・臨床知識を経て、第4学年のCBT・OSCEに繋がるカリキュラム構成となっています。旧カリの学生からの声は、大学として嬉しく思います。旧カリの学生に対しては、国家試験合格だけでなく有能な歯科医師として社会で活躍できるように、5年次の臨床実習をもっと充実させます。
アクティブラーニングの強化について ・学生同士で教え合う授業。教え合うことが最も勉強になる。 ・他人と考え方の違いを理解・共有したい。 ・教科によっては既に実施されているが、ファシリテーターがつかないこともあり、学生の姿勢に差が出ているのを見ると、自分の士気が下がってしまう。	○			グループスタディールームやラーニングコモンズなど、自学自習をサポートする環境が整備されており、多くの学生が利用しています。今後も積極的に活用してください。 授業内で全力で取り組まない学生に対し「姿勢を正して欲しい」、「士気が下がる」、という意見がありますが、周囲に惑わされず自分の姿勢を貫いてください。
PC操作に不慣れな教員がおり、授業の開始が遅れたり、スライド投影されないことがある。		○		授業の進行に支障があり申し訳ありません。どんな操作が支障を来しているか事例をまとめ、教員への周知とスキルの向上に取り組めます。
出席確認に時間がかかりすぎる。		○		現状は1台で出席確認を行っていますが、AIによる顔認証システムを開発中です。新年度からは、2台体制での確認が可能となる予定です。

※令和7年4月1日現在の対応内容となっており、今後の状況によって変更する可能性があります。